

豊富な神棚神具の品揃え

進藤神具店(博多)

進藤神具店の創業は戦前まで遡る。初代の後、二代梅吉、三代彦一と続き、現在は進藤廣二(しんとう・ひろじ)氏が社長を務める。

店内には戦前の主基齋田(すきさいでん)にまつわる写真が飾ってある。

稲田のことで、写真には脇山村(現在の福岡市早良区)とあることから、この写真が昭和天皇が即位された昭和三年のものであることが分かる。この年の十一月に行われた大嘗祭に福岡県脇山村の稲田が主基齋田となり米が献上されたのだ。

では神事を行う神殿も建てられるが、進藤廣二社長の話では進藤梅吉は宮大工であったということ、梅吉は神殿建立に携わった他、神事で用いる各種神具を調製したと思われる。

現在の看板は進藤神佛具店だが、これは各種仏壇仏具も扱ったためだ。取材中も仏像と仏具をお客様が購入された。店舗は仏壇店が立ち並ぶ川端通り商店街にあるが、店頭のワゴンの商品をお客様が次々と手にとってご覧になる。

店内は神棚神具の展示が豊富で、天井からは坪鈴が吊られ、賽銭箱や各種提灯も豊富。たくさんの赤い提灯が神具店であることをよく物語る。

お店では進藤廣二社長と奥様の和子さんが接客対応をするが、和子さんは明るく朗らか。久留米のご出身で、大学生の時に進藤神具店でアルバイトをしたことが馴れそめであったとの由。

仏壇は伝統型から都市型までを展示。

◎進藤神具店 福岡市博多区上川端十二一八六
TEL・FAX〇九二二(二八二)六〇四〇



進藤神具店 店頭には朽木摺りの門帳が下げられ神具店であるシンボルとなっている



各種御宮と提灯の展示



天井からは坪鈴が下げられている
仏壇店ではなかなか見ない光景だ



仏壇は伝統型と都市型の展示



上の写真が主基齋田の記録
二代進藤梅吉が写真に映る